
Memorys//

いのいち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Memorys /

【Nコード】

N1362U

【作者名】

いのいち

【あらすじ】

「始めましょうか——物語の終わりを目指す物語を」
何もないありふれた現代。夜空が紅い月に穿たれる時、人々の知らない真実が動き出す。
珍しく月の見えない夜、少年は少女に出会った。そして、新たな戦いが始まる——

一話：闇（前書き）

誰も知らない世界
誰かが知っている世界

一話：闇

―闇。光も音もすべてを吸い込んでしまいそうな闇……

とある街、雑居ビルが立ち並ぶその一角。

そこから聞こえてくる音がある。

液体を踏む音。金属が打ち合う音。物が潰れる音……

そこに近づくにつれて周囲に漂えう匂いに気づく。

生物の腐敗したような臭い。生臭い鉄の臭い。

更に近づくにつれて見えてくる。

鋭利な刃物で切断された金属片。身体の一部を欠損した死体。地面や壁のいたるところに咲く赤い紅い血の花。

そして

その惨状の中に立つ、唯一生を感じられる人の形をした何か。

手に握られた己の身の丈ほど在りそうな一振りの刀身、鍔、柄すべてが白一色の刀。

周囲には十数体の死体があるにも拘らず持つ刀どころか、其処に立つ者にも返り血一つない。

「・・・これで終わりか？」

どこか物足りないような、それでいて安堵しているようなそんな声
誰かとの会話のようだが辺りには他に誰も見えない。

「・・・そうか」

そう言つて口元に薄く笑みを浮かべ、刀を鞘に納めるとその姿は暗
闇の奥へと消えていった。

これは、人に知られる事なくどこか闇の深いところで毎夜毎夜行わ
れている世界の一部。

一話：闇（後書き）

物語の主となる世界の一部の紹介です。

二話：朝（前書き）

短いんですけどね！

二話：朝

―朝。人々が起きだし活動が始める目覚めの朝。

日も昇り多くの人がすでに活動が始めている中、未だに活動を開始できないでいる者がいた。

複数の電子音がいつから鳴り続けているのかその部屋に鳴り響いている。

そんな事など気にも留めず、気持ちよさそうに寝起きを立てながらベッドの布団の中に埋もれている男が一人。

ふと新しい電子音が寝息を立てる男の枕元から鳴り出した。

今までどんな物音にも反応しなかった男がその音、携帯電話の着信音が鳴り出した途端に飛び起きた。

「っ！もう8時かよっ！」

時計を見て焦りながら電話に出ると聞きなれた声が聞こえた。

「起きてるか千早」

「今起きたっ！すまん、助かった！」

「次の日はいつもだからな。仕事を頼んでおいてお前が寝坊で遅刻というのは俺としても避けておきたいしな」

「あいつら夜中に出てくればいいものを3、4時に出てきやがるからな。こっちは眠いっつーのによ」

「そうだな・・・普段十二時には寝るお前にはつらい話だな」

「ああ、そうだな亮司。そうだとわかっていていつも時間ぎりぎりに起こしてくれるからな・・・ありがたくて涙が出るぜ」

「ふっ。そうだろ？・・・っと、いいのかこんな悠長に話していても。まあ、俺は構わないが」

「ぬあああ！くそっ！この性悪がつ！またあとでな！」

必要以上に力を入れて電話を切ると寝癖もそのままに制服に着替え慌しく部屋を飛び出していった。

ようやくして彼、天土千早の一日が始まった。

二話：朝（後書き）

バトルものって設定難しいですね？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1362u/>

Memorys//

2011年10月4日08時53分発行